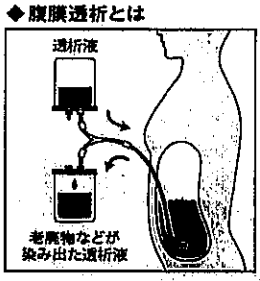
Medical　メディカル

自宅で可能 腹膜リット大きく

家庭 負担少ない腹膜透析

国内には成人の5人に1人が慢性腎臓病(CKD)とされ、血液透析の患者は約35万人にのぼる。人工透析には血液透析のほか腹膜透析があり、「安全な人工透析」と言われるが、腹膜透析を国内で行える医療機関は少ない。日本医療研究開発機構(AMED)腎臓疾患克服研究事業の研究者、東京都立駒込病院(東京都文京区)の柳田素子腎臓内科部長に聞いた。

◆腹膜透析とは



腹膜透析で腎機能は長く保てる

腎臓は、血液をろ過して尿を作り、老廃物などを排出する他、体内の水分や塩分の調節、血圧の調整、造血に必要なホルモンを分泌する。腎臓の機能が衰えると、体内に老廃物がたまるが、初期段階ではほとんど気付かない。何らかの腎臓病と診断され、むくみ、食欲不振、夜間頻尿(3回以上)などが表れる。

老廃物をろ過する糸球体(しきゅうたい)は、加齢とともに硬くなって機能が衰える。中でも、糖尿病や高血圧症、腎臓病症の人は腎臓病になりやすいので、定期的な血液検査や尿検査が必要です」と同部主任医師。

血液検査で腎臓のろ過機能の状態を表すGFR(糸球体ろ過量)が15ml/分以下になると、人工透析が必要となる。「尿検査で、腎臓機能をチェックできます。血圧、夜間頻尿が見られたら病院を受診するとよいでしょう」

腹膜透析の代表的な方法には、血液透析、腹膜透析、腎移植がある。血液透析は、血液をろ過器に流して老廃物や水分を除き、再び体内に戻す。腎臓が1週間に3回、1回約4時間行う。

一方、腹膜透析は、おなかの腹膜を利用する。腹部に カテーテルを取り付けて透析液を流し込むと、たまった老廃物などが透析液に染み出てくるので、これを排出する。

方法としては、日中に3～4回、毎回30分程度を自宅で自分で行う CAPD(持続性外来腹膜透析)と、夜間の睡眠中に機械で自動的に行うAPD(自動腹膜透析)がある。月に1～2回の通院となる。血液透析は長く続くのが難点。

◇

日本大医学部付属病院の所在地　〒174-8610 東京都板橋区大谷口上町30の1　電話03(3972)8111

健康 メディカル

しっかりかむ習慣を

子どもの口腔機能

大人がよくかんで食べる姿を見せる

10代の2人に1人が「噛(か)むのが嫌(きら)い(食べにくい)」などと口の機能の問題を感じていることが、2025年に日本補綴歯科学会が実施した全国調査で明らかになっている。山口県補綴歯科医会(山口市)の小山茂幸会長は「口腔(こうくう)機能の発達が不十分な子どもが増えている」と警鐘を鳴らす。

幼児に多いもの

山口県補綴歯科医会が県内の保育所、幼稚園、認定こども園など33施設を対象に行った調査では、「硬い物が食べられない」か「自中、無意識に口をぽかんと開けている」など、子どもの口腔機能の低下を懸念する声が複数関係者から多数寄せられた。

同会は、子どもの保護者を対象としたアンケート(複数回答)でも、「無意識に口をぽかんと開けている」(30・4%)、「噛むのが苦手かはっきりしない」(同15・6%)、「食べ物を早く食べる」(同9・1%)などの回答があった。口が無意識に開いていしまうのは、口の周りの筋肉や舌の力が弱く、舌が本来あるべき位置にないからだ。「食べ物が多いのは、食べ物をよくかまずに、丸ごと飲み込むからだ」と同会。

子どもはかむことで口周りの筋肉を鍛えているが、「柔(やわ)らかい食べ物をスプーンで口の奥に入れてしまうと、舌筋がかたまるだけで、舌の運動でかたまりをすりつぶすことがなかなか育ちません」

大人がかむ姿勢手本に

かむ力が未発達のままだと、舌の使い方や顎の筋力、骨の発達も悪影響を与える。不調は生活習慣や歯ぎしりの乱れ、かみ合わせなどの問題が出てくるため、将来の口腔機能の衰えを加速させる可能性もある。

「なかなかかんで噛むことを教えない食べ物ばかりを与え、小さく刻むのは逆効果です。食材を少し大きめに切り、大人がよくかんで食べる姿を見せ、子どもの「まねしたい」という意欲を引き出しながら訓練しましょう」

山口県補綴歯科医会ではゲーム感覚で口腔機能の発達を促す冊子を作成し、普段からのおもちゃ「吹き戻し」を活用する取り組みを始めた。また、ナシリトル人(の風船)が全身を使う発語を促す訓練を年長児に行う有償講座を開催。かむ力が増したという報告も。

子ども自身が、ゆっくりとよくかんで食べ物と噛(か)まれることを楽しめるようなことも知ることも重要だ。「せかさず、子どもが楽しく、食事に集中できる環境を整えてあげましょう」と小山会長は助言する。(メディカルトリビューン=時事)

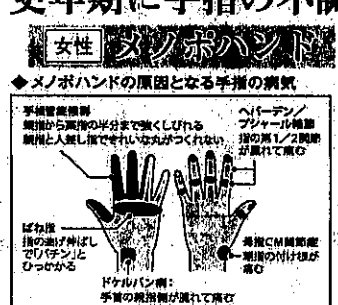
◇

山口県補綴歯科医会の所在地　〒753-0814　山口市吉敷平野4の1　電話083(922)8020

更年期に手指の不調

女性 メノポハンド

◆メノポハンドの原因となる手指の病気



(下江隆裕順師への取材を基に作成)

エストロゲン減少が影響している

更年期(メノポーズ)には女性ホルモンのエストロゲンが減少する。エストロゲンには血管を拡張して手指の血流をよくし、関節の内側を滑らかにする作用があるサプリメント(エクオール)など、予防や治療の選択肢も広がっています」サプリメントと一部の漢方薬には健康保険は適用されない。

「メノポハンドは、エストロゲンが急激に減少する閉経を挟む前後5年程の女性です。エストロゲンの急激な減少に伴い、関節が固まれて凹凸がつき、関節の骨と骨がぶつかって関節の痛みや腫れが出ると考えられます」と話す。

メノポハンドの原因として多いのは、手の変形性関節症(指の第1関節に腫れと痛みが出る「ヘバーデン結節」や親指の付け根が痛む「母指CM関節症」など)、ばね指(代表的な神経障害で親指から薬指の半分までが痛くしびれる「手根管症候群」(しゅこんかんしょうこうぐん)などがある。

「更年期の手指の関節の腫れやこわばり、痛み、しびれなどを放置すると、やがて変形に至る場合が多く、それらの症状は関節リウマチなど他の疾患ですぐ病気の可能性もあるため、専門医への受診を勧めます」

薬や装具を主に使用

手の変形性関節症の診断は、視診・レントゲン検査の他、血液検査や超音波検査を行う場合もある。治療は、消炎鎮痛薬の服用、軟膏(なんこう)塗布、患部の安静を図る装具を主に使用し、痛みが強い場合は消炎鎮痛薬やステロイドの関節内注射、症状が強い場合は手術を検討する。

「関節のつらい状態を和らげて手の機能の改善を図ります。軽度時に装着する装具、ヘバーデン結節用のリング型装具、エストロゲンと似た作用があるサプリメント(エクオール)など、予防や治療の選択肢も広がっています」サプリメントと一部の漢方薬には健康保険は適用されない。

「メノポハンドは、エストロゲンが急激に減少する閉経を挟む前後5年程の女性が対象です。閉経に至る過程で、手指の変形がある人や肥満など生活習慣病がある人も要注意です」

一般的に更年期を過ぎると痛みは軽くなる。「下肢関節は「老化だから」と放置せず、変形が進行する前に専門医にケアをしてほしい」と助言している。(メディカルトリビューン=時事)

◇

和歌山県立医大付属病院の所在地　〒641-8509　和歌山市紀三井寺811番地1　電話073(447)2300

子どもの医療アプリが緊急性判断に有効

子どもの救急受診

保護者が医療情報アプリを利用することで、子どもの病状から緊急度をより的確に判断し、救急外来の受診につなげられる可能性があると、佐久中央病院(長野県佐久市)などの研究グループが発表した。

同市では佐久医師会が主導し、症状から子どもの病院受診の目安などを調べられる無料の医療情報アプリ「救えて！ドクター」を提供している。

研究グループは、2023年12月～24年8月に同市の休日小児科急病診療センターを受診した8歳以下の子どもの保護者386人を対象に、アプリの利用と受診の緊急性との関連を調べた。

その結果、「緊急」と判断された受診割合はアプリ利用者で63.7%、非利用者では41.7%だった。また、利用者の87.0%が「アプリが受診判断に役立った」、94.4%が「アプリの利用を勧めたい」と回答した。

研究グループは「救急搬送事例の詳細な評価や、より広範な対象での効果検討を実施したい」としている。(メディカルトリビューン=時事)

免疫低下で目の疾患に

コロナ禍に増加

コロナ禍に免疫が低下し、高齢者の間で目の疾患のヘルペス性ぶどう膜炎が増加したと、東京科学大などの研究グループが発表した。

ヘルペス性ぶどう膜炎は、免疫機能の低下によりヘルペスウイルスが再活性化することで発症し、強い炎症を伴う。研究グループは、65歳以上のぶどう膜炎患者1095人のデータを収集し、そのうちヘルペス性ぶどう膜炎の65人について詳細な解析を行った。

その結果、コロナ禍の2020～22年にヘルペス性ぶどう膜炎と診断される患者数が高い水準を維持していたことが分かった。また、ぶどう膜炎全体では女性の方が多かったが、ヘルペス性ぶどう膜炎は男性の割合が多く、原因ウイルスはサイトメガロウイルスだった。

研究グループは「(コロナ禍は)外出控えで免疫刺激が不足し、免疫強化が十分に図られない状態になった」と指摘。「治療の遅れが視力障害や失明につながる可能性があり、迅速な診断と治療が必要」としている。(メディカルトリビューン=時事)

糖尿病薬の一種で死亡リスク減

腎移植患者

腎移植を受けた2型糖尿病患者のうち、糖尿病や肥満症の治療薬「GLP-1受容体作動薬」を使った人は、使わなかった人に比べて腎機能不全になるリスクや死亡リスクが低いことが分かったと、米国の研究グループが発表した。

研究グループは、2013～20年に同国で初めて腎移植を受けた患者のうち、移植手術時に2型糖尿病があった178016人のデータを収集。腎保護効果があるGLP-1受容体作動薬の有効性や安全性を調べた。

このうち1069人(10.9%)が手術後、少なくとも1回GLP-1受容体作動薬を使用した。解析の結果、同薬剤を使った患者は、使わなかった患者と比べ、移植した腎臓が機能しなくなるリスクが49%、死亡リスクが31%それぞれ低かった。

研究グループは「今後、臨床試験でこの結果を検証する必要がある」としている。(メディカルトリビューン=時事)

健康

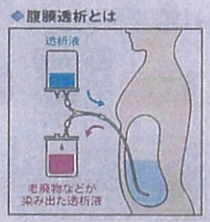
火・木・土曜日掲載

自宅で可能 メリット大きく

負担少ない腹膜透析

国内では成人の5人に1人が慢性腎臓病とされ、血液透析の患者は約35万人に上る。人工透析には血液透析の他、自宅でできる腹膜透析があり、「おうちで透析」とも言われる。日本大医学部（東京都板橋区）腎臓高血圧内分泌内科の岡部雅紀主任教授に聞いた。

◆腹膜透析とは



自覚症状なく 発見遅れも

腎臓は、血液をろ過して尿を作り、老廃物などを排出する他、体内の水分や塩分の調節、血圧の調整や造血に必要なホルモンを分泌する。腎臓の機能が衰えると、体内に尿毒素がたまるが、初期症状はほとんどない。何らかの腎臓の障害が3カ月以上続くと慢性腎臓病と診断され、むくみ、全身の倦怠（けんたい）感、食欲不振、夜間頻尿（3回以上）などが表れる。

老廃物をろ過する糸球体（しきゅうたい）は、加齢とともに徐々に壊れ、再生されないため腎臓機能が衰える。「中でも、糖尿病や高血圧症、脂質異常症の人は腎臓病になりやすいので、定期的な血液検査や尿検査が必要です」と岡部主任教授。

血液検査で腎臓のろ過機能の状態を表すGFR値が15以下になると、人工透析が必要となる。「尿検査でタンパク質が検査でチェックできます。泡立つ尿、血尿、夜間頻尿が見られたら病院を受診するとよいでしょう」

高い満足度

腎機能の代替療法には、血液透析、腹膜透析、腎移植がある。血液透析は、血液を人工腎臓に流して老廃物や水分を除き、再び体内に戻す。病院で週3回、1回約4時間行う。

一方、腹膜透析は、おなかの腹膜を利用する。腹部に力テーテルを取り付けて透析液を流し込むと、たまった老廃物などが透析液に染み出てくるので、これを排出する。

方法としては、日中に3～4回、毎回30分程度を患者自身が行うCAPD（連続携行式腹膜透析）と、夜間の睡眠中に機械で自動的に行うAPD（自動腹膜透析）があり、月に1～2回の通院となる。血液透析に比べ心臓への負担が少なく、生野菜や果物、コーヒーなどの食事制限も緩い。仕事や趣味と両立できるため、患者の満足度は非常に高いという。「血液透析は治療に合わせて生活を変えざるを得ません。腹膜透析の普及率は低いですが、メリットは大きいです」と岡部主任教授は話す。

◇　◇

日本大医学部付属板橋病院の所在地　〒173-8610　東京都板橋区大谷口上町30の1　電話03（3972）8111

■職種別の健康格差明らかに

がん診断後10年の生存率を職種別に分析したところ、製造や建設業従事者など単純作業労働者は他の職種よりも生存率が低いことが分かったと、産業医科大などの研究グループが発表した。

研究グループは神奈川県のがん登録データを用い、1992～2015年にがんと診断された20～65歳の患者4万1632人の職種について①専門職・管理職②事務・販売・サービス職③製造・建設・鉱業・運輸業④農業・林業・漁業―に分類。これらの違いがその後の生存率に及ぼす影響を調べた。

10年間追跡した結果、③の労働者の全疾患に対する生存率は36.4%、がんを対象にした生存率は43.5%で、他の職種に比べて低かった。特に①の労働者は全生存率が51.5%、がん生存率が56.9%と高く、顕著な差があった。また、がんステージ別に見ると、進行がんの人の割合が③の労働者で高かった。

さらに、50歳を超えるとこの職業間の格差がより大きくなる傾向も見られた。

■認知症、知識が多いと強い不安

認知症に関する知識が多い人は、発症することに強い不安を抱いていたと、名古屋大などの研究グループが発表した。

研究グループは、愛知県と岐阜県の40歳以上の住民を対象に、認知症への不安、うつ症状、身体的不調、認知症に関する知識などについて調査を実施。269人（平均年齢64・8歳）から得られた回答を検討した。

分析の結果、認知症への不安が強い人には①認知症に関する知識が多い②過去1年間に悩まされた身体的症状が多い③中等度以上のうつ症状がある④両親またはいずれかが認知症と診断されている―という四つの特徴が見られることが分かった。

研究グループは「知識の偏りや誤解が不安を助長する可能性がある」と指摘。「正確で不安を和らげる情報の提供が重要」と述べている。

※署名記事以外はメディカルトリビューン＝時事

ドクターリレー　Tokachi

十勝整形外科クリニック　宗近賢一院長

骨や筋肉疲労、適度な運動もカギ

今週からドクターリレーを引き継ぐ十勝整形外科クリニック院長の宗近賢一です。皆さまの健康に少しでも役立つような話題を整形外科医の視点からつづらせて頂きます。どうぞよろしくお願いします。

むねちか・けんいち　1972年東京都生まれ。獨協高校、昭和大学医学部卒。整形外科専門医、リウマチ専門医、リハビリテーション医学会認定臨床医、医学博士。家族の縁で帯広へ、2012年から開西病院、15年12月に十勝整形外科クリニック開院。

5人に1人経験 まさに"国民病"

「最近ずっと腰が痛くて…。整形外科の外来では、毎日のようにこの言葉を耳にします。厚生労働省の調査によれば、日本人の約5人に1人が腰痛を抱えているともいわれ、男性では症状別で第1位、女性でも肩こりに次ぐ第2位にランクインしています。

腰痛は、まさに"国民病"と呼ぶにふさわしい症状であり、労働生産性の低下や生活の質の悪化に大きく影響しています。年齢や性別を問わず、子どもから高齢者まで幅広い層で見られ、現代社会の大きな健康課題です。

①　腰痛―原因と対策を知ろう

腰痛の原因は実にさまざまです。整形外科の診療で多いのは、骨や関節の老化による変形や椎間板の異常、筋肉の疲労や緊張です。また、姿勢の悪さや運動不足、肥満、長時間の同じ姿勢も腰に負担を掛けます。まれに骨折や感染症、がんの転移などが原因となる場合もありますが、ほとんどは骨や筋肉の状態が中心です。

診断には、まず患者さんの話をじっくり聞くことから始まります。痛みの部位や性質、いつから始まったか、動かした時や休んでいる時の変化、しびれや足の力の入り具合など、痛み以外の症状の有無も重要な手掛かりです。

基本は痛み軽減 日常生活の改善

必要に応じてレントゲンやMRI検査を行い、骨の状態や神経の圧迫を調べます。ただし、検査で見つかる変化が必ずしも痛みの原因とは限らないため、検査結果だけで判断することは避けています。

治療の基本は、痛みの軽減と日常生活の改善です。薬物療法では痛み止めや筋肉の緊張をほぐす薬を使いますが、長期の服用は避け、症状に応じて調整します。重要なのは、過度に安静にするのではなく、できる範囲でなるべく動かすことです。適度なストレッチやウオーキング、体幹を鍛える運動は腰の負担を減らし、回復を助けます。時には理学療法士によるリハビリやマッサージも効果的です。

腰痛の予防には、まず日常生活の工夫が欠かせません。長時間同じ姿勢でいる時は、1時間に1度は立ち上がって軽く体を動かしましょう。重いものを持つ時は腰を曲げずに膝を使うこと、正しい姿勢を意識することも大切です。また、肥満の改善やストレスの軽減、十分な睡眠も腰痛の予防につながります。

しびれや排尿…深刻な障害かも

最後に注意したいのは、「いつもと違う痛み」が出た時です。例えば、痛みが強くて夜も眠れない、足にしびれや力が入らない、排尿や排便のコントロールが難しくなった場合は、早急に専門医の診察を受ける必要があります。こうした症状は、骨折や神経の深刻な障害を示している可能性があるため、見過ごさないことが重要です。

腰痛は放置すると慢性化し、日常生活に大きな支障をきたすことがあります。しかし、正しい知識を持ち、日々の生活の中で適切な工夫を続けることで、症状は大きく改善が期待できます。痛みを感じても諦めず、早期に医療機関を受診し、ご自身に合った対策を見つけることが重要です。健康な腰を保ち、より快適な生活を目指していきましょう。

十勝整形外科クリニック

今年で開院10年を迎えます。これまで地域の皆さまに支えられ、日々の診療を続けてこられたことに深く感謝申し上げます。今後も再発予防と健康な体づくりを大切に、皆さまの笑顔ある毎日をサポートできるよう、スタッフ一同努めてまいります。

▽住所＝帯広市西5南37ノ1ノ23
▽電話＝0155・47・4976
▽院長＝宗近賢一
▽診療時間＝月～金曜は午前9時～正午（受け付け開始午前8時半～）、午後2時～同6時（受け付け開始午後1時半～）。土曜は午前9時～正午（受け付け開始午前8時半～）。日曜・祝日休診。

からだ

「おうち」で可能 腹膜透析

国内では成人の5人に1人が慢性腎臓病とされ、血液透析の患者は約35万人に上る。人工透析には血液透析の他、自宅でできる腹膜透析があり、「おうち透析」とも言われる。日本大医学部（東京都板橋区）腎臓高血圧内分泌内科の阿部雅紀主任教授に聞いた。

自覚症状なく

腎臓は、血液をろ過して尿を作り、老廃物などを排出する他、体内の水分や塩分の調節、血圧の調整、造血に必要なホルモンを分泌する。腎臓の機能が衰えると、体内に尿毒素がたまるが、初期症状はほとんどない。何らかの腎臓の障害が3カ月以上続くと慢性腎臓病と診断され、むくみ、全身の倦怠感、食欲不振、夜間頻尿（3回以上）などが表れる。

老廃物をろ過する糸球体は、加齢とともに徐々に壊れ、再生されないため腎臓機能が衰える。「中でも、糖尿病や高血圧症、脂質異常症の人は腎臓病になりやすいので、定期的な血液検査や尿検査が必要です」と阿部主任教授。

血液検査で腎臓のろ過機能の状態を表すGFR値が15以下になると、人工透析が必要となる。「尿検査で、悪化する前の腎臓病をチェックできます。泡立つ尿、血尿、夜間頻尿が見られたら病院を受診するとよいでしょう」

仕事や趣味と両立 高い満足度

腹膜透析の仕組み

月1～2回通院

腎機能の代替療法には、血液透析、腹膜透析、腎移植がある。血液透析は、血液をろ過装置に流して老廃物や水分を除き、再び体内に戻す。病院で週3回、1回約4時間行う。

一方、腹膜透析は、おなかの腹膜を利用する。腹部にカテーテルを取り付けて透析液を流し込むと、たまった老廃物などが透析液に染み出てくるので、これを排出する。

方法としては、日中に3～4回、毎回30分程度を患者自身が行うCAPD（連続携行式腹膜透析）と、夜間の睡眠中に機械で自動的に行うAPD（自動腹膜透析）があり、月に1～2回の通院となる。血液透析に比べ心臓への負担が少なく、生野菜や果物、コーヒーなどの食事制限も緩い。仕事や趣味と両立できるため、患者の満足度は非常に高いという。「血液透析は治療に合わせて生活を変えざるを得ません。腹膜透析の普及率は低いですが、メリットは大きいです」と阿部主任教授は話す。

心臓への負担少なく、食事制限も緩め

情報

【がん患者会・はまなすの会「がんサロン」】

▽8月8日14～16時、姫路市呉服町48、大手前通りハトヤ第一ビル5階のコムサロン21ルーム。

▽同12日10時半～正午、赤穂市中広の同市総合福祉会館。

▽同17日10時～11時半、相生市旭1の同市立総合福祉会館。

▽同日13時半～15時、太子町米田のはまなすの家。

▽同月28日14～16時、佐用町佐用の同町保健センター。

がんサロンはがん患者や家族などの交流会。姫路会場には内科医も参加予定で、参加費は姫路のみ一般300円、ほかは無料。いずれも予約不要。はまなすの会事務局☎079・277・2764、メールhamanasunokai.s@outlook.jp

生老病支 ひょうごの現場から

人、物資、設備 何もかも不足

発熱や発疹などの症状が出る「エムポックス（サル痘）」の流行が、アフリカ中部のコンゴ（旧ザイール）を中心に続いている。同疾患について、世界保健機関（WHO）が2度目の緊急事態を宣言してから間もなく1年。同国出身の医師で、今年4～5月にWHOのチームの一員として母国で活動した兵庫県立大地域ケア開発研究所（明石市）のムゼンポ・バシルア・アンドレ教授（52）に聞いた。（広畑千春）

エムポックス流行、コンゴの現状

エムポックスは、1958年に初めて人間に感染した天然痘に似た感染症。「グレード1」と「グレード2」の2系統に大きく分類され、致死率は前者が10％程度、後者は1％程度とされる。

ムゼンポ教授は、WHOの「グローバル感染症警報・対応ネットワーク」（GOARN）の一員として首都キンシャサに派遣され、患者のケアやワクチン接種、薬品供給の補助などに従事した。

同時発生的に流行

ムゼンポ教授が着任した直後にキンシャサで大規模な供給が発生し、衛生環境がぜい弱な中で感染症が多発。「現地ではコレラやはしか、炭疽病などさまざまな感染症がまん延する中、同時発生的にエムポックスが発生し、炭疽病などの患者が生じ、視力を失った成人や、母子感染で全身に発疹ができている乳児も多数出会った。

「コンゴを取り巻く状況の深刻さを知ってもらいたい」と語るムゼンポ教授＝明石市北王子町、兵庫県立大地域ケア開発研究所

ムゼンポ・バシルア・アンドレ　コンゴ出身の内科医・産婦人科医。2007年に国際協力機構（JICA）の研修員として来日した。結核やエイズなどの感染症や熱帯医学、災害リスク軽減など臨床マネジメントなどが専門で、24年4月から現職。コンゴには症例管理の専門家として、4月1日から5月28日まで派遣された。

検査とワクチン接種へ支援を

WHOのチームの一員としてコンゴで活動するムゼンポ教授（手前左）＝提供写真

エムポックス　体液や血液などを介して感染し、10日ほどの潜伏期間を経て発熱や頭痛、リンパ節の腫れ、発疹などの症状が現れる。1970年に人間での感染がコンゴで初確認され、2022年以降世界中に拡大。WHOは同年7月に1度目の緊急事態を宣言し、新規感染の減少を受けて23年5月に終了を発表した。しかし、東南アジアなど各国で猛威を振るい始めたことから昨年8月14日に再び緊急事態を宣言した。

検査とワクチン接種は、感染症対策の要。しかし、農村部を中心に道路は未整備で車も少なく、感染地域になり着くまでにも時間がかかり、「検査が進まず、その間に家庭内感染が起きる」とムゼンポ教授は説明する。海外からの援助でワクチン接種も進めているが、折り畳み式の簡易冷蔵庫を使い、医療を拒む人もいるという。

仮設テントで診察

ムゼンポ教授らは「国境なき医師団」（MSF）と連携し、エムポックス患者からの転院を進めたものの、「すべきことは分かっているのに救えない患者が大勢いた。人も物資も設備も、何もかも足りない」と訴える。

汚物収束への緊急対策が続く中、コンゴではグレード1の新たな変異株も確認されている。一方、日本ではクレードⅠは検出されていないものの、2022年以降、250人を超える感染例が出ている。ムゼンポ教授は「紛争や貧困が病気を呼び、さらに困難を深めていく。遠い国の出来事と捉えず、日本からも支援の手を差し伸べてほしい」と訴えている。

「生老病支　ひょうごの現場から」は毎月第4月曜掲載。生・老・病・支を巡る医療の話題や、前を向いて「支」え合う人たちの取り組みを紹介します。

神戸新聞報道部医療・科学チーム　FAX 078.360.0629　iryou@kobe-np.co.jp

BSK 2 NHK BS8K　BS 263 BSよしもと　BS 9 WOWOWプライム　BS 9 WOWOWライブ　BS 9 WOWOWシネマ　BS 10 BS10　BS 10 BS10スターチャンネル　BS 11 BS11イレブン